

神戸大学機械クラブ主催  
第6回基幹座談会「学生時代と社会人生活を語る座談会」開催の趣旨  
(平成30年5月19日(土))

座談会部部长 山岡高士

実行委員長 玉屋 登

大正10年12月神戸高等工業学校(建築・電気・機械科の3学科)が設立され、大正14年11月同窓会が発足しました。初代会長は廣田精一初代校長で、構成は木南会(建築)、竹水会(電気)、機械クラブ(機械)でした。その後1949年(昭和24年)に新制神戸大学が発足し、工学部機械工学科が開設されました。神戸高等工業学校から今日の工学部に至る間の卒業生から構成される現工学振興会において、機械クラブの会員を構成する卒業生は延べ7,800名を超える規模となっております。機械クラブは会員相互の親睦をはかり、技術者の人格向上に寄与するとともに、母校の発展を支援することを目的としています。

本会は、機関誌の発行(年数回)、講演会、見学会、会員親睦会および座談会の開催、功績のあった教員および優秀な学生の表彰、ならびに学生の自主活動への支援を行う事業を行っております。

大学になってからの卒業生、特に中年から若年層の卒業生の同窓会活動に対する参加が、極めて希薄であることを改善する必要に迫られました。その対応策の一つとして、2014年(平成26年)には「座談会提案書」(末尾注参照)に示されているような趣旨で、年代をまたいだ同窓生同士の交流の輪を広げるための企画を立案・実施する座談会部会が設置されました。

座談会部会は現在まで、①年代をまたいだ同窓生同士の交流の輪を広げ、またその親密度を高めるための「基幹座談会」と、②これからエンジニアとして、世に出ようとしている若者の参考になる成功例、失敗例などの話をして、若者からの質問を受け、意見交換するなど若者との交流の場として「機械技術者生活を語る座談会」の活動を行って同窓会の更なる活性化を図っております。

「基幹座談会」は既に5回開催し、当初の目標である年代をまたぐ同窓生同士の交流の輪が徐々に広がり親密度も高まって来ておりますが、出席者同士の会話を行う時間が少なく、意見交換による学生へのフィードバックについて議論されず、座談会と言う名に相応しい形ではないのではないとの意見もありました。一方、「機械技術者生活を語る座談会」については、卒業生の経験が現役学生へ十分に伝承されており、現役学生へのアンケートにおいても是非継続して欲しいなど好評を得ており、母校の発展に寄与していると考えております。

今回までは、「基幹座談会」は学生時代の思い出を中心とした意見交換でありましたが、最近においては、①社会人生活において学生時代の勉学が役立った、②企業において必要となる実用に関する範囲まで授業を広げれば良いのではないかなど、の話題も多くなっている

る状況です。

このような状況を踏まえて、昨年、座談会部会で議論した結果、第6回基幹座談会では、出席対象の同窓生をM⑬～M⑭、P①～P⑤の各回生1名程度(合計12名程度)とし、従来よりも話題の幅を広げて「学生時代と社会人生活を語る座談会」として開催します。

更にこの度の企画として、これまでの座談会の話題から抽出しました関心の高いテーマに関して、出席者の皆様にアンケートを行い、その結果から、優先度・関心度の高い3件の共通テーマを選定し、個々のテーマごとに、各出席者から学生時代と社会人生活を結ぶ思い出話を頂きます。次いで、機械クラブ役員、座談会部会員、等の参加者の全員が、そのテーマを中心に意見交換するようにと考えています。このように懇談時間の適切な設定によって、ディスカッションにより出席者間並びに機械クラブ役員、座談会部会員が、お互いの絆を見つけ、またそれを深めることができると期待しております。本形式による座談会によって、卒業生間の交流が一段と活性化されることを期待するところです。

以上

注: 「神戸大学工学部機械系工学科の思い出を語る座談会提案書 2018.3.18」は機械クラブホームページ <http://home.kobe-u.com/ktcm/> Contents 欄の「座談会(寄稿文)」をクリックし、「機械クラブ座談会」のページで「座談会提案書」を閲覧ください。

なお、過去5回の座談会の状況については同ページ「座談会(報告)」を閲覧ください。